

グループ討議における意見に対する対応方針等一覧

防災(防災計画・ハザードマップ等)について	
市政懇談会での意見(要約)	対応方針等【回答担当部署】
<p>・現在の防災計画での津波の想定では足りない。留萌の地形も奥まっているリアス式なのでこの点も考えて被害を想定しなければならない。</p>	<p>津波発生時の被害想定(津波浸水予測)は、現在、北海道が平成24年春の完成を目指して作成を進めております。</p> <p>市では、その北海道の作成する「津波浸水予測データ」を基に、津波発生時に速やかに、そして的確に避難できるように、予測される被害範囲や避難所、緊急避難場所、沿岸部の避難路の情報等を取り込むことを検討しながら地図化(津波ハザードマップ)し、平成24年度中の完成を目指しております。</p> <p>津波ハザードマップができるまでの間、市では避難所の見直し、緊急避難場所の調査、沿岸部の避難路調査を行いますので、その他の災害情報、防災情報と合わせて、広報紙や町内会との懇談会など、市民の皆さんへの周知に努めてまいります。また、海拔調査も行い、分かりやすい表示方法の検討も進めてまいります。</p> <p>【総務部総務課】</p>
<p>・平成25年の春ごろ津波ハザードマップが完成するスケジュールとなっているが、簡易版でもできるだけ早く示していただきたい。また、説明会の開催もお願いしたい。</p>	
<p>・津波が発生した場合、留萌川からの被害も含めた市街地全体のシミュレーションを早く想定して、広報などで住民に周知してほしい。</p>	
<p>・ハザードマップの完成が2年後ということで、それはそれで進めてもらいたいが、「今どうすべきか」が重要であり、「今できること」を市民に対して何らかの形で示しておくべきではないか。特に、災害毎の支援方法、内容、どこに避難すべきかなど早急に周知してほしい。</p>	
<p>・水位をイメージできるように、各地域に海拔表示をしてはどうか。</p>	
<p>・水害の時に低いところの被害が予想されており、浸水の調査や被災地区に住んでいる人口調査が必要ではないか。</p>	<p>水害や津波によるハザードマップ(浸水予測地図)の作成に伴い、浸水予想区域に合わせて、区域内の人口を調査いたします。</p> <p>【総務部総務課】</p>

防災(避難場所・避難路等)について	
市政懇談会での意見(要約)	対応方針等【回答担当部署】
<p>・東雲地区は津波が留萌川を遡上ってくると、避難場所は神居岩しかなく、孤立するのはと心配である。</p>	<p>災害時には、あわてて行動せずに、事態が納まるまで安全な場所で救助を待つことも大切であります。</p> <p>仮に避難路等が災害によって閉鎖された場合でも、海岸線や河川、港方面には移動せず、安全な場所で正しい情報を収集することが必要であります。</p> <p>迅速な避難を行うための自主防災組織での避難訓練を日頃から実施することで、いざという時のための避難行動を身に付けることができます。</p> <p>また、港町の道道留萌港線に架かる橋については、阪神淡路大震災級の地震を想定した最新の耐震基準を満たしております。</p> <p>【総務部総務課】</p>
<p>・地震が発生し津波が来た場合、港町の鉄道の壁や黄金橋が崩れると港側に行くしかなく、心配である。</p>	

<p>・避難場所が現状とあっているのか、耐震性はどうか、再検討が必要である。</p>	<p>現在、市内にある全ての避難所の耐震性、海拔などの立地条件を調査し、避難所としての機能や条件の見直しを行い、災害の種類に応じた指定の検討を進めるとともに、津波等の発生時の緊急避難場所について調査を行い、建物の耐震性や高さ等の条件を考慮し、市の施設のほか、国・道や民間の施設についても、利用可能性について所有者と協議を進めてまいります。</p>
<p>・現在指定されている避難所では住民を収容する容量がない。</p>	<p>また、災害時の備品や非常食の備蓄は、現在「防災倉庫」を中心に、一部、避難所にも保管しておりますが、今後は、避難所の見直し、備品・備蓄品の内容、防災倉庫のあり方など災害時に有益な方法の検討を進めてまいります。</p>
<p>・災害の種類、発生時期(夏、冬等)に応じた避難所の指定をお願いしたい。その指定には、市の施設だけではなく、国や道等の施設を含めて検討してほしい。</p>	<p>避難者の避難所での収容については、災害の規模、被災区域に応じて、区域内や最寄の避難所を適宜開設するなど、最大限の対応に努めるとともに、沿岸部の高台への避難路の除雪については、沿岸部の町内会と除雪を含む冬期間の管理方法について協議をしてまいりますと考えております。</p>
<p>・防災計画で示される避難所について、「津波の場合はここが安全です」の様な具体的な場所を示した確立されたものを示してもらいたい。</p>	<p>津波に対する安全性の表示は、地形などの条件によって津波の高さや動き、スピードなどが違うため、非常に難しい問題であり、高さの目安となる表示については、分かりやすい表示方法の検討も進めてまいります。【総務部総務課】</p>
<p>・町内会館は耐震性が保障されていないが、避難所としての備品整備など充実していけるか検討すべきではないか。</p>	<p>元町地区は、地区内に高層の建物もなく、高台までの距離もあるため、津波発生時の緊急の避難場所確保が課題になっている地区であります。町内会の自主防災訓練等の際に、市も参加し、住民の方々と一緒に、現状での適切な避難方法について検討してまいります。また、元町地区以外でも港湾周辺、中心市街地、留萌川周辺などの海拔の低い地域も、同様に対応方法を検討いたします。【総務部総務課】</p>
<p>・元町地区では災害対策を講じているが、海拔が6mなので避難場所を検討している。また、学校と話し合っているが、津波到達まで時間が少ないので児童をどう誘導するか基本的な見直しをしている。根本は高台への避難だが、災害の訓練の指導を受けることが必要。</p>	<p>港北小学校の児童の避難については、留萌市の防災計画の見直しに合わせて、学校の防災計画を見直してまいりたいと考えており、当面の間は少しでも高台へ避難することが求められますが、実際に避難訓練を通じて短期間に避難できる経路を模索してまいります。【教育委員会学校教育課】</p>
<p>・6mクラスの津波であれば、留萌小学校や聖園幼稚園あたりであれば大丈夫だと聞いているが、正しい情報なのか。</p>	<p>災害発生時には、その規模や範囲によって標高の高い地域であっても「絶対安全」とは言い切れません。災害発生時に自分が居る場所やお住まいの場所に</p>
<p>・市役所は海拔何メートルぐらいか。浜中地区は3メートルの津波でダメになると聞いている。</p>	<p>に応じて、津波情報等に基づき適切に避難することが必要です。【総務部総務課】</p>

<p>・高台に避難するとなると、車の置き場が必要となる。また、地震により道路が使えない所も出てくるのが想定されるので、ケースによった避難経路を示してほしい。</p>	<p>車での避難は、渋滞の発生や避難路の状況によってはリスクが伴うため、避難する場合は徒歩が基本であり、避難経路も災害の状況によったの判断が必要です。 情報収集と個々の判断で最善の経路を選ぶことが大切になります。 【総務部総務課】</p>
<p>・海岸部では、三泊の地滑り対策で斜路を作っている所があるが、避難路として活用できると思われるので、検討してみてもどうか。</p>	<p>礼受町から三泊町までの日本海沿岸部の皆さんが津波から逃れるため、11月までを目途に高台につながる避難路の調査に取り組んでおります。 調査終了後には、沿岸部の町内会のみなさんに説明会を通じて情報をお知らせするとともに、この避難路の情報を平成24年度中に作成する津波ハザードマップに反映してまいりたいと考えております。 【総務部総務課】</p>
<p>・日東団地、自由が丘、ひまわり台、千鳥町など袋小路、海岸線など避難道路は複数用意すべきである。</p>	<p>災害時の避難路確保は重要な課題ではありますが、既に住居等が建設されている団地などでは避難路のための敷地を確保するのも難しい場合もあり、市道の整備計画などと合わせて協議していく必要があります。 【総務部総務課】</p>
<p>・日東団地の避難道路の早期着工と懸案事項である公共交通の団地内の運行について地域を代表して要望したい。</p>	<p>現在、見晴通の市道敷地の引き継ぎ業務を進めておりますので、引き続き「都市計画決定」に向けて事業の必要性を説明しながら、手続きを進めてまいります。 【産業建設部都市整備課】 昨年の実証運行の乗車数を参考に、平成23年10月1日から、見晴町6丁目から留萌市立病院の間で、期限を定めず本格運行することになりました。 【市民生活部生活環境課】</p>

防災(災害時要援護者対策)について	
市政懇談会での意見(要約)	対応方針等【回答担当部署】
<p>・町内会では、防火、防犯に自主的に取り組んできた。防災についても自助、共助の精神で、子どもや高齢者への助け合いが大切である。</p>	<p>災害時には、自分で自分の命を助ける「自助」と、地域の助け合い「共助」が基本となります。</p> <p>また、災害弱者(子供、高齢者、障がい者、要介護者等)など避難時の要援護者を支援するため、市では「災害時要援護者避難支援プラン」の作成を進め、今年中に全体計画をまとめ、その後、要援護者一人ひとりの身体状況、通院している病院などの情報を加味した避難計画(個別計画)を作成し、個々の要援護者が町内会の自主防災組織の支援(共助)を受けて避難できるように進めてまいりたいと考えております。</p> <p>一人では避難できない方の生活の状況、隣近所で支援する人の生活の状況を考慮して、曜日や時間帯別の対応策を立てることも必要になる場合もあり、また、支援を必要とする人の状況に合わせて、日ごろから地域で相談し、準備しておくことが必要であり、このプランでは本人の同意を基本に、関係者と情報の共有を進めながら支援体制の構築に取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>今後は、災害の種類に応じて避難所の見直しを行い、その種別の中で最寄の避難所へ避難するのが基本であり、徒歩で避難することが基本原則であります。場合によっては、避難者と避難所の容量を見極め、年齢や家族構成を考慮した割り当てや、避難者の状況(高齢、遠距離など)に応じた避難方法を検討する必要があると考えており、避難者の相互理解、譲り合いの精神が大切です。</p> <p>【総務部総務課】</p> <p>市営住宅では、災害時(地震、停電)はエレベーターが最寄りの階に停止する仕組みになっているため、避難時には使用できず、停電時などでは非常照明が点灯する避難階段が一番安全な避難経路となります。</p> <p>このような場合に備えて、町内会や集合住宅内の自治会などで自主防災組織を設置し、互いに助け合いの精神をもとに日頃から避難方法を相談し、訓練することが大切です。</p> <p>【産業建設部都市整備課】</p>
<p>・町内会の役割を示してほしい。他の組織、団体の役割分担の再確認も必要である。また、どういった経路で避難するのか市と連携してきちんと把握する必要がある。</p>	
<p>・高台にあるため津波の心配はしていないが、地震に対する訓練をしていかなければと考えている。高齢者が多いため、どのように行うのか問題である。</p>	
<p>・一人暮らしの老人など弱者を地域が把握して対策をたてなければならないが、最近では若い人がいなくなったことと、どのような生活をしているかわからないことが多くなり、個人情報などの取扱が問題となる。</p>	
<p>・老人世帯は把握しているが、どのように助けるのか、朝、日中、夜間体制などこれから考えていかなければならない。</p>	
<p>・弱者の避難方法として、リヤカーなどを使った避難も有効ではないか。</p>	
<p>・津波は例外として、高齢者や障がい者などの弱者は近くの避難所へ、若者や健常者は少し遠くの避難所へ集まることも考えてはどうか。</p>	
<p>・防災についての「今までの取り組み」が実感できていない。例えば「情報の伝達」についても、本当に高齢者などの災害弱者一人ひとりに伝わっているのか、そのあたりもきちっと確認してほしい。</p>	
<p>・高齢者の避難について苦慮しており、特に冬場は難しい。車での移動は混乱を招くため原則的には使用しないことが大事であるが、高齢者を避難させる場合など、車を使用しなければならない状況もあるのではないかと思う。また、冬期間の避難路確保に関しては、除雪問題も含めて考えなければならない。</p>	
<p>・高齢者をどう避難させていくのかが問題。特に若者の少ない地区は高齢者同士が手を取り合い避難しなくてはならない。また、避難時にエレベーターが使えなくなり、階段で避難することが想定される。</p>	

防災(自主防災組織等)について

市政懇談会での意見(要約)	対応方針等【回答担当部署】
<p>・自主防災組織の拡大には、市をはじめ他の団体との連携が必要であり、情報提供や意見交換の場を設定してほしい。また、この度の大震災を契機に地域でも自主防衛組織が出来つつあるが、この機運を大切にしっかりした体制を作るためにも行政のバックアップをお願いしたい。</p>	<p>市では、自主防災組織の設立や自主的な防災訓練、避難方法などに関する相談・支援や、出前トークなどを通じた防災対策等についての情報提供なども行ってまいりますので、お気軽にお問い合わせください。</p> <p>また、防災訓練では、子どもや高齢者、障害者などの避難対策も含めて町内会や自主防災組織で準備することが大切であり、歩いて自分で避難できる人、車椅子やタンカが必要な人、介助が必要な人などの状況把握に努め、地域にあった対応策が必要になります。</p> <p>災害時には、町内会による自主防災組織の活動での助け合いが重要な役割を持ちますので、自主防災組織の拡大・強化に向けて、日頃から市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。</p> <p>【総務部総務課】</p>

防災(情報等)について

市政懇談会での意見(要約)	対応方針等【回答担当部署】
<p>・防災無線が市内に配置されているが、いざとゆう時のためにチェックをお願いする。また、沿岸部を中心に設置されているが、様々な災害や必要性などを考えると、全市的に聞こえるように屋外拡声機を増やしたり電源を確保するなど、防災行政無線の整備を進めるべきである。</p>	<p>防災行政無線は沿岸部と留萌川の沿線を重点に24機のスピーカーを設置しており、通常の点検としては毎日、18時(10月から3月は17時)と20時の2回、音楽を流しておりますが、防災無線は設置数が限られていることや風が強いときには聞こえにくくなるなどの弱点があるため、災害時における市の広報体制(情報連絡体制)は、市と消防の広報車による周知、FMもえるでの放送、町内会の防災連絡員へのメール送信など、複数の方法が必要になります。</p> <p>速やかに正確な情報伝達を確立するため、防災行政無線とFMもえるとの連携についても調査研究を進めたいと考えております。</p> <p>また、気象台から津波警報などが発令された場合の具体的な対応等については、引き続き広報紙や新聞報道、市ホームページ、FMもえる、出前トークなどを通じて市民の皆さんへの周知に努めてまいります。</p> <p>【総務部総務課】</p>
<p>・市の広報紙などを活用し「津波警報」が出された場合の具体的な対応がどうなるのか？防災行政無線でサイレンが鳴るのか？どういうアナウンスが流れるのか？どの地域で聞こえるのか？など、現状の対応状況などについて周知してほしい。</p>	
<p>・今回の大震災の影響で防災に対する意識、危機感が高まっているが、これを継続させることが必要で、そのための情報発信が必要になってくるのではないか。</p>	
<p>・過去の体験で「すぐに避難すべきだ」「2階があれば待機すべきだ」などと、様々な情報が交錯していた記憶がある。そのあたりもきちっと整理し、正確な情報が伝わるよう対応してほしい。</p>	
<p>・市のイベント情報などを「車で広報」しているが、実際にはサーと通り過ぎていくために、聞いている方は何を話しているのか全然内容がわからない。そのあたりも日常的な取り組みとして、「車で広報の仕方」などを意識して取り組んでいかないと、災害時に活用できないと思う。</p>	

防災(その他)について

市政懇談会での意見(要約)	対応方針等【回答担当部署】
<p>・町内会の高台に位置するところに水道の水を溜める水槽があり、地震の時には壊れてしまうのではないかと心配している。</p>	<p>沖見配水場を拠点とした配水施設整備事業を平成20年度から実施しており、この度のご意見に該当すると思われる高区配水池においても、改修等の計画施設となっております。</p> <p>今後は、計画スケジュールに併せた耐震診断を実施の上、工事を進めてまいります。</p> <p>【市民生活部上下水道事業課】</p>
<p>・日東団地は、盛土によって造成されている。今回のような地震が、発生した場合大変不安である。</p> <p>・低い地域、特に埋め立て地の液状化現象などの問題がある。液状化の予想される地域などの情報を住民に周知してほしい。</p>	<p>市内には土地造成や地形によって、土砂災害等の危険区域に指定されている地区があります。また、埋め立て等の影響によって液状化の恐れのある地域もありますので、地震、大雨など災害の種類に応じた適切な情報提供ができるように検討してまいります。</p> <p>【総務部総務課】</p>
<p>・この度の震災では、自衛隊や警察の陰に隠れているが、消防団も重要な任務を担っていたと思うが、自分の地域ではなかなか後継者がいないとの情報もあり、体制が実在しているのか不安である。</p>	<p>留萌消防団は、市内を6つの区域に分けて消防分団を配置し、6分団それぞれの定数は19～22人で合計117人となっておりますが、平成23年8月1日現在の分団員総数は、定員から11人少ない106人となっております。</p> <p>消防団は、自分たちの地域は自分たちで守るといった地域愛護の精神に基づいた共助と公助の性格を併せ持った組織であり、このような思いがあれば、誰でも入団することができます。</p> <p>留萌消防組合では「消防団協力事業所認定制度」を制定し、地域の企業、事業所へ従業員の加入促進や、消防団の「市民防災訓練」への参加などを通じて入団促進に取り組んでおりますので、ご理解をお願いいたします。</p> <p>【消防本部総務課】</p>
<p>・今回の震災の様子から、備蓄品として土のう袋や段ボールが絶対必要であり、確保してほしい。</p>	<p>留萌市での備蓄として、土のう袋は確保しておりますが、今回の震災での情報をもとに備蓄品の見直しを行い、必要な品物を順次用意できるよう進めております。</p> <p>【総務部総務課】</p>
<p>・災害が発生すると、ケガなどで病院へ行くことがあるが、低地の市立病院がそもそも発電や病院機能として災害に対応しているのか。</p>	<p>市立病院の建物は、新耐震構造により震度6強～7程度の地震に耐えられることができます。また、津波に関しては、海拔が9.2mであるため、大きな影響を受けることがないと考えられますが、現在、北海道では津波に対する見直しを進めており、その結果が出た段階で再検討をする必要があると考えております。</p> <p>【市立病院事務部総務課】</p>
<p>・留萌川の幅はどのくらいか。川幅によって水が上がってくる高さが変わってくる。</p>	<p>留萌川の川幅(水面)は、河口で約60m、留萌橋で約50m、東橋で約40mとなっておりますが、季節や海の満干潮などによって変動いたします。</p> <p>市では、津波ハザードマップを平成24年度中に作成いたしますので、その中で留萌川への影響も示すことができると考えております。</p> <p>【総務部総務課】</p>

経済の活性化(観光活用等)について	
市政懇談会での意見(要約)	対応方針等【回答担当部署】
<p>・市内だけの消費では限界があるので、観光などで外から来てもらう必要がある。色々と策を講じてはいるが失敗が多いのは、観光は見るものがないからで、留萌は通過型で宿泊施設がないので、留萌に来て滞留時間が少なくなってしまう。</p>	<p>旅行者や観光客のニーズは、これまでの物見遊山的なものから産業や環境、健康などのテーマ性が強い体験型・交流型のものが注目されており、新たな地域資源の発掘や既存の観光資源の活用を図りながら、観光をツールとした地域経済の活性化につなげてまいりたいと考えております。 【産業建設部経済港湾課】</p>
<p>・これからは魚の加工や料理教室などの体験型観光の時代だと思うので、生産者と行政が同じ方向で進むべきだと思う。</p>	<p>漁業や地場水産生鮮品への理解と関心を向上させるため、市内小中学生を対象にした「いきいき水産学習」の開催、また、市外からの観光客を対象にした「漁業体験モデル事業」を実施しております。 【産業建設部農林水産課】</p>
<p>・海水浴場が整備され夏場は観光客が来るが、自分のテントを持ち込む宿泊施設がないので留萌に金が落ちない仕組みになっている。経済の活性化のために何らかの手当てが必要だと思う。</p>	<p>キャンプは、主にゴールデンビーチるもいや黄金岬、神居岩公園などを利用していただいております。 バンガローなどの付帯設備がないため、利用は夏期に集中しておりますが、今年2回目を迎えた「オートキャンプフェスティバル」では、シーズオフの海水浴場を利用し、126組(385人)が訪れております。このような宿泊施設の少なさを逆手に取った新たなターゲットの掘り起こしなどにも取り組んでまいりたいと考えております。 【産業建設部経済港湾課】</p>
<p>・行政に頼るだけでなく、それぞれバラバラに取り組んでいるイベント的なものも、地域や団体などがまとまって道の駅に集結するなどの取り組みを進めていくことも必要である。</p>	<p>地域内外で行われている各イベントでは、年々各関係機関や団体が共同で取り組まれているものも多くなってきております。 今後もイベントの目的を考慮しながら、地域ぐるみの取り組みを進めてまいりたいと考えております。 【産業建設部経済港湾課】</p>
<p>・留萌を訪れた人を連れて行く場所が無い。礼受牧場、ふるさと館などの施設があるが、もっと気軽に訪れ、自然を満喫できるような場所があればいいと感じる。</p>	<p>観光スポットの干望台に隣接する「るもっぺ憩いの森」や黄金岬と海のふるさと館、神居岩総合公園など、自然を感じながら歴史や文化を学んだり、スポーツを楽しむ施設がございますので、気軽にご利用いただきたいと思います。 また、増毛町・小平町など、近隣のまちにも魅力的な場所が数多くございますので、留萌南部や留萌管内を含めた留萌地域のPRにご協力いただければ幸いです。 【産業建設部経済港湾課】</p>

経済の活性化(施設活用)について

市政懇談会での意見(要約)	対応方針等【回答担当部署】
<p>・旧病院跡地へ道の駅をつくるという意見が過去にあったと思うが、その後どうなっているのか。</p> <p>・道の駅を地域活性化の受け皿として、海産物を大きな規模で販売してはどうか。道北観光の拠点としても受け皿になる道の駅が必要だと思う。まち全体の体制で活性化策に取り組むべきだ。</p> <p>・隣街の増毛のような特産品が無いと感じる。留萌の特産や名産品を一同に集めて、販売や食することが可能な「道の駅」での売り込みや情報発信が必要だと思う。</p> <p>・「日曜の朝市」的な取り組みも含めて、そういう道の駅のような「拠点」があれば発展していく。行政だけに頼るわけではないが、きっかけとしての拠点も必要である。</p> <p>・農産物の直売所など、ここに行けば地場の物が揃うというような常設の販売店機能を有する道の駅が必要ではないか。</p> <p>・地方からの来客があった場合、宣伝する物産の情報に乏しいので、情報の一元化のため「道の駅」が留萌にも必要ではないかと感じる。</p> <p>・うまいよ！ るもい市の拡大などにおいては、「道の駅」などを作ると、トイレの問題を含めてイベントを発展させることができるのではないかと考える。</p>	<p>道の駅建設につきましては、その建設場所、どのような機能を持たせるのか、どのような情報を発信するのかなど、市民の皆さんから様々な意見をいただいているところであります。</p> <p>財政の健全化に取り組んでいる現状においては、新たな施設の建設は難しい状況にありますが、皆さんからいただいた意見を参考に、慎重に検討してまいります。</p> <p>【政策経営室企画調整課】</p>
<p>・市内で大きな大会などを開催しても宿泊施設や大勢で昼食を取れる場所(店)が少なく、参加者に迷惑をかけている現状がある。また、観光協会でお土産を販売する値段が市内の店と同じ値段では駄目だと思う。</p>	<p>現在の地域経済の状況などから考えると新たな宿泊施設の建設は難しいものと思われ、過去に行った大規模な大会などでは、留萌管内のほか、空知・上川管内の宿泊施設なども利用して開催しており、昼食は野外や産業会館などを利用して提供しているケースなどもございました。</p> <p>既存の施設や資源をさらに有効に活用する方法を検討していくことも必要と考えております。</p> <p>また、観光協会によるお土産品の販売価格につきましては、お買い求めの場所によってばらつきがないように原則統一した価格で販売しておりますので、ご理解をお願いいたします。</p> <p>【産業建設部経済港湾課】</p>
<p>・礼受の佐賀番屋を活用できないのか。</p>	<p>旧留萌佐賀家漁場は、国の史跡として指定されており、毎年夏期の一般公開をはじめ、団体等希望者への公開を随時行っているところでありますが、敷地全体が史跡としての指定を受けているため、観光施設として必要な機能であるトイレや駐車場などの整備は行えない現状にあり、観光資源としての積極的な活用は難しい状況にあります。</p> <p>今後におきましては、既存の整備計画の見直しを行いながら地域活性化の素材としての活用を考えてまいります。</p> <p>【教育委員会生涯学習課】</p>

<p>・留萌の観光は通年性に乏しい。温泉施設の整備や活用、また、海のふるさと館に温泉施設を設置して、夏は海水浴や夕日、冬期間は温泉施設としてはどうだろうか。</p>	<p>新たな温泉施設の設置による建設費や維持管理経費は大きなコストが伴い、利用収入を含めた慎重な検討が必要であると考えております。 今後も観光協会などとともに、海のふるさと館の活用策や市内の既存の温泉施設と連携した観光振興策を検討してまいりたいと考えております。 【産業建設部経済港湾課】</p>
<p>・公園などの「トイレ」が使えなくなっているが、財政の問題については十分に理解するが、留萌市が「観光を目玉」としているのならば、やはり人を気持ちよく迎えるという意味においても、そうしたトイレなどの整備は、来てもらうための「原点」になるのではないかと思います。</p>	<p>公園のトイレは、有料公園や近隣公園、見晴公園は使用できますが、錦町公園を除く街区公園のトイレは完全閉鎖しております。また、町内会事業で使用する場合は、費用を負担していただきながら一定期間使用している現状にあります。 街区公園のトイレの開放については、「財政健全化計画の見直し」の中で、地域の声を聞きながら検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。 【産業建設部都市整備課】</p>

経済の活性化(食資源活用等)について	
市政懇談会での意見(要約)	対応方針等【回答担当部署】
<p>・留萌ブランドの確立が必要ではないか。スイーツや数の子、留萌米など札幌や旭川の方への売り込みも必要だが、まず地元のPRをもっとすべきで、市民で取りかかる全体での取り組みを進めるべきではないか。千望高校の生徒も頑張っているの、地元でもっとバックアップをして行くべきと思う。 ・地産地消の取り組みは地元へのPRがもっと必要で、地元の人が気軽に立ち寄り、購入できる場が必要。一般市民の理解が大切ではないかと考える。</p>	<p>南るもい米については、平成21年度に南るもい地域におけるお米の消費動向や、南るもい米取り扱い事業所の把握を行い、平成22年度からは、調査結果をもとに市民や来訪者を対象として、のぼり等を活用した南るもい米PR事業を実施しております。 今後も事業手法を改善しながら、南るもい米の域内消費拡大を目指して事業を継続してまいります。 【産業建設部農林水産課】</p>
<p>・いちごやグスベリーなど、留萌のもので新たな特産品を見つけてはどうか。</p>	<p>新たな特産品については、関係機関や生産者と連携を図り、いちごやグスベリーなども含め、さまざまな一次産品に関する情報収集に努めながら、創出の機会を探ってまいります。 【産業建設部農林水産課】</p>
<p>・うまいよ！るもい市のときは地方からもたくさんの方が集まるように、留萌でしか食べられないような物、資源があるので、もっとPRを展開することが必要ではないか。</p>	<p>「うまいよ！るもい市」実行委員会、留萌観光協会と連携を図りながら、効果的なPRに努めてまいります。 【産業建設部農林水産課】</p>
<p>・「うまいよ！るもい市」の活性化が必要ではないか。地方からくる方に、お腹一杯ウニ丼を食べさせていただくような、他に無いような特徴を出さないと羽幌や増毛の「甘エビ」に対抗できないと思う。また、場所ももっと街中の広いところでやると活性化になるのではないか。</p>	<p>留萌の独自性を持たせるため、旬の生鮮魚介類を中心とした「袋詰め放題」等を実施しております。 また、開催場所については、「海のみち留萌」を印象付けるため、海沿いの地方卸売市場で開催しております。 【産業建設部農林水産課】</p>

<p>・旅行者から留萌の海鮮料理を食べたいが何処で食べれるかと聞かれてもすぐに答えられない。・みんなが行きやすい海鮮料理を出す店を市でバックアップしては。</p>	<p>例年、うにまつりなどの取り組みを行っている留萌寿司商組合加盟店や居酒屋など、市内には観光客等からも評判の高い飲食店が少なくありません。 このようなお店を紹介するマップやホームページなどもございますが、市民の皆さんにも広くPRしていただけるよう、今後も観光協会などと連携しながら情報発信の充実に努めてまいります。 【産業建設部経済港湾課】</p>
<p>・留萌の食を代表するものとして数の子があるが、市内でこの食材を使用した料理を出すところがない。地元の人が食べる機会がないのは残念である。 ・留萌はニシンのまち。水産加工も先駆けた地域なので、そこに力を入れてはどうか。また、カズノコ生産日本一の技術をもっと地方へPRしてはどうか。</p>	<p>市内水産加工生産業者や市内飲食店などと連携し、地場製品の消費拡大に努めてまいります。 【産業建設部農林水産課】</p>

<p align="center">経済の活性化(その他)について</p>	
<p align="center">市政懇談会での意見(要約)</p>	<p align="center">対応方針等【回答担当部署】</p>
<p>・人口を増やす方策が必要ではないか。これは個人の取り組みでは難しいことである。</p>	<p>人口の減少や景気の低迷により、市内の雇用環境はこれまで同様厳しい現状となっております。 雇用の確保が安定的に図れないことなどで、人口が流出する現状を食い止めるため、国・道の施策を十分に活用しながら、また、企業の誘致などに関する情報収集に努めていくとともに、地元の魅力を自ら再認識し発信していくことで、市外からの交流人口の増加を図る施策の展開に努めてまいります。 【政策経営室企画調整課】</p>
<p>・企業誘致など働く場を増やすことが必要。空き地を無料で使用してもらうことや、被災者を受け入れることなども考えられるのではないか。</p>	<p>地元個店の中でも率先して「おもてなし」への取り組みを実施しているところもあり、一概には言えないと思いますが、商店街として積極的にこのような取り組みを実践していただくよう働きかけてまいりたいと考えております。 【産業建設部経済港湾課】</p>
<p>・個店の接客マナーにも問題があり、客が都会へ流れるのは当然のように感じる。都会で進めている「おもてなし運動」をやってみるなど、もっと努力するべきではないかと思う。</p>	<p>平成23年10月1日から、見晴町6丁目と留萌市立病院の間に、午前と午後各2便のバスを本格運行することとなりましたので、ぜひ皆さんにご利用いただきたいと思っております。 【市民生活部生活環境課】</p>
<p>・地域では高齢者の一人暮らしなどで「買い物難民」が増えている。今年から導入予定の公共交通運行に期待している。</p>	<p>現在、市内建設業者を対象とした住宅改修促進助成事業を、10月中旬のスタートに向けて準備を進めているところでございます。 ご意見をいただいている住宅新築に対する補助制度も含め、地元の建設業者などの活性化に向けた取り組みを図ってまいります。 【産業建設部経済港湾課】</p>
<p>・住宅の新築現場などを見ていると、施行が地元の業者ではないケースが多く見受けられた。地元業者を利用する場合の「新築補助制度」など、地元の業者の活性化に向けた取り組みなども必要ではないか。</p>	<p>現在、市内建設業者を対象とした住宅改修促進助成事業を、10月中旬のスタートに向けて準備を進めているところでございます。 ご意見をいただいている住宅新築に対する補助制度も含め、地元の建設業者などの活性化に向けた取り組みを図ってまいります。 【産業建設部経済港湾課】</p>

<p>・観光にしても、旧幌糠中学校の利活用にしても、道の駅ができなかったことについても、中途半端だという思いがある。</p>	<p>旧幌糠中学校の利活用については、どのような利活用が良いのか、引き続き試行的利活用を行っているところであります。 【教育委員会学校教育課】 道の駅に関しましては、前述のとおり慎重に検討してまいります。 【政策経営室企画調整課】</p>
<p>・船を持っている人が少ない。もっと一次産業に力をいれれば良いと思う。</p>	<p>漁業後継者不足は深刻な問題であり、栽培漁業の取り組みにより安定的な漁業生産を確保するとともに、後継者確保に努めてまいります。 【産業建設部農林水産課】</p>
<p>・消費者は、もっと地元で買い物をすべき。物が高いとか、良い物がないなど理由で地方に買い物に行く人が多いと感じる。</p>	<p>近年は郊外型大型店の進出や交通事情の進展、コンビニやドラッグストアの台頭、消費行動の多様化(ネット販売)などにより、消費が大型店や市外に流出していることが顕著となっており、また、後継者不足や廃業による空き店舗も増加しているなど、地元商店街は活気が低迷している状況にあります。</p>
<p>・市内での消費をいかに増やすか。市外へ流出してしまっている消費を市内へ誘導することが必要だが、現状は、ほしい物を買える店がない。</p>	<p>市といたしましては、地元関係団体と連携し、地元産品のブランド化など地域資源を生かしたまちおこしへの取り組みを模索しながら地域の活性化に繋げてまいりたいと考えており、また、やる気のある地元の方々の様々な取り組みに対して、今後も支援をしてまいりたいと考えております。</p>
<p>・地元のものを売り込む、地方から集客する、お金が落ちるとい仕組みを考えてはどうか。</p>	<p>【産業建設部経済港湾課】</p>
<p>・色々な対策に期待するが思うように行かないのが現実だと感じる。マチの空洞化が進み、シャッター通りになっている。行政が色々活性化に取り組んでいるが、どうしても生活が優先となる。</p>	<p>【政策経営室企画調整課】</p>
<p>・市役所も緊縮財政であるため活性化も難しいのでは。その中でもメリハリのある財政運営、地域の活性化につながる策が必要ではないか。</p>	<p>商工会議所や商店街、経済団体などと、どのような形で経済の振興を進めていくのか意見交換をしながら、また、地域住民の皆さん方に地産地消についてもご協力をいただきながら、留萌市の活性化を図っていきたくと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。 【政策経営室企画調整課】</p>

<p>子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくり(地域の活動等)について</p>	
<p>市政懇談会での意見(要約)</p>	<p>対応方針等【回答担当部署】</p>
<p>・町内に子どもがいないというのが、みんなの共通した実感ではないかと思えます。</p>	<p>現在、市内にある多くの町内会では少子高齢化や役員の手不足など、共通の悩みを抱えております。そのような中で、地域福祉活動、環境保全活動、災害救援活動、地域安全活動など様々な分野を町内会で担っていただいております。</p> <p>いただいたアイデアにもあるように、他の町内会と合同で行事を行うなど、町内会同士の横のつながりを持って、連携をしながら、お互いの悩みを解決していくことも必要かと考えております。</p>
<p>・若者がなかなか参加しないため、町内会役員の担い手も不足している。</p>	
<p>・町内会では子どもの事業に力を入れている。子どもたちだけではなかなか進まないの、子どもたちを外に引っ張り出す工夫をしている。</p>	
<p>・町内会では夏休みにはラジオ体操、その他クリスマス会、餅つき会などを実施している。しかし、町内会の子ども数は年々減ってきている。</p>	

<p>・他の町内会と合同でラジオ体操を実施する予定である。</p>	<p>しひ必要なしことかえしのつよ。市といたしましては、町内会長会議などでの事例紹介を通じた支援を継続してまいりたいと考えております。 【市民生活部生活環境課】</p>
<p>・町内会も高齢化し、高齢者の問題の方が喫緊の課題となっている。</p>	
<p>・町内会の合併や地区の見直しという方法を考えては。</p>	
<p>・元町、春日町の子ども会は数が少なくなっており、なかなかミニチュケーションが取れなくなっている。港北は50人を切ってしまった。学校の再編成をするので子どもが少なくなっている。</p>	<p>元町・春日町地区の児童数は確実に減少しており、教育環境を維持するためにも学校の再編成が必要となっております。 【教育委員会学校教育課】</p>
<p>・町内会で中心となって動く人がいなく、子ども会は停滞している。30代ではどう子どもを動かして良いのかわからないので市でリーダー養成をしてほしい。</p>	<p>子ども会が後退していく状況については、将来的な地域コミュニティの維持を含めて本当に大きな課題であると考えております。 子ども会を再生し活性化するためには、地域で中心となる「指導者の育成」、子どもたちの活動の中核・次代の指導者となる「ジュニアリーダー(中・高校生)の育成」といった取り組みに加え、子どもの親の積極的な協力や地域のすべての大人が関わり育てるという意識の醸成が不可欠であり、また、子どもが参加したくなる魅力のある行事の工夫など、総合的な対策が必要になるものと考えており、市といたしましては、こうした課題について、地域とも十分に協議を重ねながら、地域が子育ての力を十分に発揮できるよう、関係機関とも連携を図り、リーダー養成機会の提供などについては、積極的に支援してまいりたいと考えております。 【健康福祉部児童家庭課】</p>
<p>・留萌の子どもたちの状況把握が必要ではないか。外で遊ばないし、少子化で町内会の子ども会活動にも支障をきたしている。</p>	<p>市が子どもに関わる施策を検討するとき、大人を対象としたアンケート調査等を行います。一番大切な子どもたちが思っていることや実際の遊びの状況などを十分に把握しないままに、進めていることが多いのではないかと反省しているところであります。 「次世代育成支援行動計画」におきましても、「子どもの視点」を第1に掲げており、もう一度、再認識する中で、常に子どもの声に耳を傾け、子どもの視点に立った施策の推進に取り組んでまいりたいと考えております。 【健康福祉部児童家庭課】</p>

子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくり(遊び場等)について

市政懇談会での意見(要約)

対応方針等【回答担当部署】

<p>・今の子どもたちは何をして遊ぶかが疑問。外で遊ばずに児童館などに集まり屋内で遊ぶ傾向にありまた、自宅ではゲームなどばかりしている。</p>	<p>都市化や少子化、テレビゲームなどの普及により、遊び自体が変化する中で、家で一人で遊ぶ子どもが増えている現状にあるものと考えております。</p> <p>このため、異年齢の子どもたちが気軽に集まり、身近で安全に遊ぶことができるような空間や、留萌の貴重な自然を活かしながら、子どもたちが自然とふれあえる機会、また、その中でいきいきと遊ぶことのできる空間を積極的に提供していくことも重要であり、市といたしまして「次世代育成行動計画」を策定し、そのような環境の整備に向けて取り組みを進めているところであります。</p> <p>更に、自然の素材を活用し、ふるさとのよさを感じることができる体験学習の取り組みも大切であると考えておりますので、同時に、そのような事業も企画しているところであります。</p> <p>【健康福祉部児童家庭課】</p>
<p>・中学生や高校生の行くところが無くなってきていてかわいそうな状況で、その辺にも目を向けてほしい。</p>	<p>地域における中・高校生世代の「居場所づくり」は重要な課題であり、先進的な事例を参考としながら、「場」の議論や自主的な運営方法などについて子どもたちの意見も聞く中で、行政だけではなく、地域住民とのパートナーシップを形成し、中・高校生が心から必要とする「広がりのある居場所づくり」に向けて取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p> <p>【健康福祉部児童家庭課】</p>
<p>・船場公園は、市内の児童館が6館あるが、それを一堂に集めたイベント会場や「子ども祭り」の会場、「子ども盆踊り」の会場として活用できないか。</p>	<p>現在、芝生広場は利用基準を定めて芝を守り育てながら開放しております。</p> <p>今後も利活用の推進を図りながら、この利用基準により積極的にご利用いただきたいと思っております。</p> <p>【産業建設部都市整備課】</p>
<p>・子どもたちが公道で自転車の練習を行うのは大変危険なので、船場公園の園路を開放できないか。</p>	<p>公園内の園路は歩行者専用のため、自転車の乗り入れはできません。近くの街区公園の活用をお願いいたします。</p> <p>【産業建設部都市整備課】</p>
<p>・船場公園の管理棟の完成後は、使用料金が発生するのか。</p>	<p>管理棟の建設が完了した段階から施設設置条例を制定し、各施設は有料使用となる予定であります。</p> <p>【産業建設部都市整備課】</p>
<p>・危険だから撤去ということで、「遊具」がなくなっている。財政事情ということは十分理解するが、遊具がすべてではないにしろ、やはり集まるきっかけとして「子どもの夢」ということであれば、そうした遊具の配慮も必要である。</p> <p>・公園は母親のコミュニケーションの場ともなっている。遊具をきちっと整備すべきである。</p>	<p>今年から2カ年をかけて策定する『公園施設長寿命化計画』により、将来とも継続して残す遊具施設等の配置計画を、地域の声を参考としながら作り上げてまいりますので、ご理解をお願いいたします。</p> <p>【産業建設部都市整備課】</p>
<p>・公園を町内会で清掃などしているが、遊具がほとんどなくなってしまった。また、トイレも閉鎖していて不便である。こんな公園は子どもにとって魅力がなくなっている。</p>	<p>街区公園の管理は、地域の理解と協力をいただきながら、33のうち11公園が地域との協働による管理が行われており、また、その他の小公園では5カ所で同様</p>

<p>・「トイレ」「水」「遊具」というのは、子どもたちが集うためには最低限必要なものであり、そういう意味において、高砂公園などでは子どもが集う姿が見られていると思うので、ぜひ考慮してもらいたい。</p>	<p>の管理が行われております。</p>
<p>・事故防止を含めて、公園の管理という経費の面だけでなく、例えば公園の近くに住む大人が子どもたちを見守るとか、そういう「地域の大人が子どもたちを見守る」というようなシステム作りについて、もう少し展開を進めていく必要があるのではないかと感じている。</p>	<p>それ以外の公園は、造園業者が必要最低限の回数（2～3回）の草刈りを実施しております。 公園により管理水準の差が出ておりますが、地域が支えてくれている公園では、良好な地域コミュニティの核としての役割が醸成されていると考えております。 トイレの開放は、財政健全化計画の見直しの中で、地域の声を聞きながら検討を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。 【産業建設部都市整備課】</p>
<p>・公園で移動図書館や読み聞かせなど、子どもが興味を示すイベントを行ってはどうか。</p>	<p>子どもたちが幼少時から「本」に触れることは、とても大切なことであり、市立図書館では、年間を通じて「おはなし会」や「映画会」を開催し、多くの親子や子どもたちに参加いただいているところであります。 今年は、新たに、野外で子どもに絵本を読み聞かせたり、クイズを楽しむ「青空おはなし会」などを予定しており、今後も可能な限り多くの子どもたちが参加できる機会を作ってまいりたいと考えております。 【教育委員会生涯学習課】</p>
<p>・市で体験する事業などをもっと企画して実行してはどうか。</p>	<p>教育委員会が、NPO法人留萌体育協会に委託して実施している「ジュニア・クラブ」事業では、子どもたちを対象として、野外体験型の事業を実施しているところであります。 今後、子どもたちの体験事業を考える中で、船場公園を活用できないかを含め、体育協会とも協議してまいりたいと考えております。 【教育委員会生涯学習課】</p>
<p>・プールに入るにしても、着替えてシャワーを浴び、運動してから泳ぎ、上がるときは目を洗いシャワーを浴びてから着替えるなど、団体生活上のマナーを学ぶという意味からも、実はとても大事なことである。</p>	<p>温水プール「ふるも」は、市民の健康づくりのための体育施設として、平成13年に供用を開始したところですが、財政健全化計画により平成21年度から平成27年度までの7年間、休館となっているところであります。</p>
<p>・ふるもを休止しているが、いつ再開できるのだろうか。今後、財政再建の黒字化が可能であれば、温水プールの再開をお願いしたい。</p>	<p>この施設は、多くの市民の皆様からの早期再開の要望があるため、財政健全化計画の進捗状況を見ながら、1年でも早い再開ができるよう、適正な施設の維持管理を行うとともに、新たな運営方針や経費の算出など、再開に向けた検討をしてまいりたいと考えております。</p>
<p>・プールがダメなら、海・川を活用してはどうか。</p>	<p>【教育委員会生涯学習課】</p>
<p>・道具や場所ではなく、生活上の楽しさを教えることも必要である。</p>	

<p>子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくり(その他)について</p>	
<p>市政懇談会での意見(要約)</p>	<p>対応方針等【回答担当部署】</p>

<p>・若い人の雇用の場がないので、子どもが少ない。若い人が入ってくれば子どもの数が増える。</p>	<p>働く場所がないから人口が流出し、人口減によりまた経済が冷え込み、経済の低迷により雇用が生まれない…といった負のスパイラルに陥っている状況を打破する特効薬はありませんが、国や道の施策を的確に捉え、地域の再生に繋がる事業を進めながら、一人でも多くの雇用が実現されるよう各方面に働きかけてまいりたいと考えております。 【産業建設部経済港湾課】</p>
<p>・財政が厳しくなってきたので、公園設備などのそうした予算が子どもたちに使われていない。逆に、子どもにかかる予算を分散するのではなく、予算を確保する中で、集中して「学校教育の充実」を図るなどの取り組みも必要ではないか。やはり、子どもたちにお金をかけていくべきである。</p>	<p>これまでも、教育委員会といたしましては児童生徒の教育環境を維持していくための予算確保に努めてまいりました。 今後は児童生徒の安心安全を図るため、学校の耐震化等計画的に取り組んでまいりたいと考えております。 【教育委員会学校教育課】</p>
<p>・子どもに関しては、主婦や母親など女性の意見が必要。女性がこういう意見交換ができる場が必要である。</p>	<p>対話の持ち方については、どのような形が良いのか、たくさんの意見をいただいた中で今後も検討を重ね、また、現場の職員などが地域に伺う「お茶の間トーク」も実施しており、その時の状況に合った実施方法で開催してまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。 【政策経営室企画調整課】</p>
<p>・子どもの施策として行政もたくさんのメニューをもっているようだが、一つ一つの事業の効果や実効性が薄いように感じるので、例えば事業を集約し、大きな範囲や規模での事業展開や似たような事業そのものを再構築する中で、もっと効果の上がる、例えば参加の多い事業の展開などを検討すべきではないかと考える。</p>	<p>各事業につきましては、毎年度、それぞれの担当部署において一つひとつの事業を検証・見直しを行い、その結果を85の施策に分けて公表しております。 今後におきましても、個々の事業の効果などをしっかりと検証し、見直しを重ねながら、より効果のある事業になるよう努めてまいります。 また、今年は「子ども夢物語」を掲げ、子どもたちがたくましく育つ環境づくりに向けた施策を、改めて組み立ててまいりたいと考えております。 【政策経営室企画調整課】</p>
<p>・市内には保育所が3箇所あるが、南町など郊外にはないため小規模でも分散して施設があればいい。また、待機児童もいるので、全員が入れる規模にしてほしい。</p>	<p>市の保育につきましては、民間の活力を活用する中で運営されており、経営的な要素も加え、より効率的で効果的な保育所運営に努力していただいているところであり、これまで地域の保育施設が維持できなかった経緯や一般的な保育所の認可基準が「60人規模」を想定していること、年齢によるクラス編成の面、更には、将来的な少子化動向などを考えますと、安定した経営のためにも、一定の規模が必要であることもご理解いただければと思っております。 現在、「幼保一元化」や「事業所内保育所の活用」などの新たな保育システムも検討されているところであり、そうした国の動向を注視しながら、市といたしましても、多様な保育サービスの提供について検討してまいりたいと考えております。 なお、留萌市においては、子どもの年齢や緊急度、申し込みの時期などによっては、“一時的に待つ”こともありますが、国の定義による「待機児童」はいない状況となっております。 【健康福祉部児童家庭課】</p>

<p>・青少年健全化育成推進員として、子どもに関する一部について委託事業を実施しているが、町内会、学校などの関係団体の理解や連携が無い。</p>	<p>子どもの健やかな成長を支援する様々な事業の推進にあたっては、子どもたちを社会全体で育てるという気運を醸成し、学校、関係機関、PTAや関係団体、そして地域社会が一体となった地域ぐるみでの取組を進めることが大切であり、そうした関係団体等の理解と協力は不可欠であると考えております。</p> <p>このため、市といたしましても、子育てに関係する団体等の連携を図る場といたしまして、「子育てサポートネットワーク連絡協議会」を設け、地域における円滑なシステムづくりを行っているところでありますが、今後におきましても、関係団体等の連携・協力がより一層期待できるよう、PRを含め、様々な施策やシステムづくりに積極的に取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>【健康福祉部児童家庭課】</p>
<p>・スキー授業は家計の負担も大きいので、他のスポーツでもいいのではないかと思う。</p>	<p>スキー授業につきましては、現在、バス、リフト代については保護者への負担をお願いしておりますが、今後家計への負担軽減について検討してまいります。</p> <p>【教育委員会学校教育課】</p>
<p>・行事に参加するにはお金がかかるが、市では日曜にバスを貸してもらえない。バス運行の助成やバスの貸し出しをしてほしい。</p>	<p>市のバスの貸し出しについては、バスの減車・職員の勤務体制・民間事業者への影響等を考慮すると土日、祝祭日の貸し出しは難しい状況にありますと考えております。</p> <p>また、バス運行の助成については、どのような行事に参加して、どのような公益性があるかなど、その個々の行事の内容によって、その行事を所管する部署に相談をしていく必要があると考えております。</p> <p>【総務部総務課】</p>

その他	
市政懇談会での意見(要約)	対応方針等【回答担当部署】
<p>・留萌市立病院の医療費が高く感じる。年金生活者には厳しい。</p>	<p>国で定める診療報酬制度により、再診料や入院料等は施設の規模や医師や看護師、臨床検査技師などの資格を持った医療職の充実度によって、診療報酬に差が設けられており、これに基づいて料金を計算するため、市立病院独自で料金を変えることができないことをご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>また、医療費の内訳につきましては、窓口でご確認いただけますと、分かりやすく説明させていただきますので、お気軽にお問い合わせいただきたいと思います。</p> <p>【市立病院事務部医事課】</p>

・数字上では赤字が減少しているように見えるが、借金の先送りだけではないか。計画性を持って着実に財政健全化を責任を持って進めてほしい。

留萌市では、一般会計のほか8つの会計がありますが、平成22年度の決算では、全ての会計の単年度の収支はプラスとなっており、さらに、全会計を連結した収支についてもプラスとなったところであります。

しかし、国民健康保険事業、下水道事業、病院事業の3つの会計では、これまでに累積した赤字がありますので、会計的には赤字会計となっていますが、健全化の取り組みもあり、その累積赤字額も年々減少しております。

また、平成17年度に地方債(借金)の借り換えにより借金返済額の平準化を図りましたが、これは、財政再生団体への転落を避けるため、やむを得ない選択であり、以後は積極的に繰上償還の実施や新たな借金の抑制等により、借金残高を減らす取り組みをしており、確実に残高は減少しております。

平成23年度において、健全化計画の見直しを検討しておりますが、地域経済の活性化にも配慮するとともに、ご指摘のとおり、財政再生団体になることが無いよう、計画的に財政の健全化を進めてまいります。

【政策経営室財務課】